

私のすすめるこの1冊

天野知幸 (国文学科 准教授)

けんとうし 『献灯使』

多和田葉子著

言葉の前で立ち止まり、咀嚼することで、物語の世界が自分と親密なものに感じられることがあります。遠い言葉を近くに引き寄せる瞬間は、見知らぬ人と通じ合うのと似て、新しい扉が開かれる瞬間なのかもしれません。この表現の前で立ち止まるという時間を、私は読書において大事にしています。たとえば、自分の内面を整え、深く思考したいと思うとき、私は理解しやすいような内容や有用性をすぐに実感できそうな書物ではない本——構成も表現もよく練られたフィクションを選びます。日常とは異質な世界や見慣れない言葉に出会うことで、日常の連続性を区切り、立ち止まる機会を得られるからです。

つい最近出会った小説もそうした機会を私に与えられるものでした。その名前は『献灯使』。ドイツと日本の両国で活躍する現代作家、多和田葉子の新作です。帯には「震災後のいつかの日本。」とあり、大きな災厄を経たのちの日本が舞台です。日本は「鎖国」していて、外来語が消えつつあります。東京の都市機能も失われ、インターネットも使えず、通信手段も手紙ぐらいしか存在しない。輸入品もない。また、そこに生きる人々においては、子供たちの死亡率が高いのに対して大人は驚くほど元気で、七十代は「若い老人」、九十代になってようやく「中年の老人」と呼ばれるほど死を奪われた超高齢化社会となっています。主人公は、東京の仮設住宅に住む百歳を超えた「義郎」とその曾孫「無名」。語り手は外界と遮断された「国」や「文化」のかたち、「義郎」のどこか内閉した思考のかたちを語りながら、15歳の「無名」

が「献灯使」として海外に派遣されるまでの展開を語ってゆきます。

一見、突飛な内容にも思われますが、超高齢化社会や環境破壊、大災害など、現在の日本社会に存在する問題の展開をそこかしこに読むこともできます。ただ、この小説は未来小説でありながら、鎖国状態という特殊な設定のためか、日本の歴史(過去)と未来とが混在しているような不思議な感触も味わえ、簡単な理解を拒む小説です。また、多和田葉子が得意とする、読者がその認識や言語感覚に揺らぎを余儀なくされるような独特な表現の世界も健在です。言葉の寿命が短くなり、多くが「死語」になっているという設定により、我々の知っている言葉の多くは機能しなくなり、別の表現がそれらに置き換わったりしています。たとえば、頭脳が「参議院」、腸が「衆議院」とも呼ばれていたりするように。社会構造やライフスタイルの変化を未来小説の多くは描きますが、この小説では言葉の変容こそを描きます。このように表現方法が変化した未来の姿は、我々の手持ちの知識や認識の枠組みではどうも捉えきれないまったく別の何ものかなののかもしれません。

フィクションが我々に与えてくれる喜びは、日常や現実からの逸脱を可能とさせる、一瞬の不安と驚きです。それはすぐに役立つものでも必ずしもありませんが、しかし、書物に没入することで、我々の住む現実や日常を捉え返し、その先を想像する貴重な機会を得られるように思われます。

読書キャンペーン【コメントA（50字以上）を一部ご紹介します】

※『書名』 著者名、出版社（シリーズ名）、配置場所、請求記号【コメント】（学科等、学年）

『高校生レストランひみつのレシピ』

相可高校調理クラブ編、伊勢新聞社、
開架 南館2階、596.0|36

【三重県には厨房からサービス、会計まで全てを高校生だけで切り盛りしているレストランがあります。そんなレストランのレシピがぎゅっつまっています。】（教育学専攻、2回）

50字以上のコメントで1ポイント、200字以上で2ポイント、ポイントカードにそったくのはんこを押してもらおう！ポイントがたまるごと（それぞれ、2、5、10、20ポイントに達すると）にグッズがもらえます。さらに、200字以上のコメントを書いた人の中にはダブルチャンス！すてきなコメントを書いた人2名に館長賞を授与します。ぜひみなさんがんばってコメントを書いてくださいね♪

『八月の路上に捨てる』

伊藤たかみ著、文藝春秋、軽読書 南館1階、19.0|06

【2つの短編からなる本で、離婚届けを提出する一日前の男の話と、価値観の違う夫婦。人間関係が、この世で一番難しい事柄であると、以前にも増して思った。】（理科領域専攻、2回）

『教壇に立つのが楽しみになる修業術』

大前暁政著、ひまわり社、開架 西館2階、374.3|061

【教育実習や専門実習で心をポッキリ折られてしまった人、必見です。決して目新しいことが書いてあるわけではありませんが、「人生すべて修行！」と思えるようなヒントが書かれています。】（教職大学院、M1）

コメントは館内にも適宜掲示します。
お楽しみに！

わくわくkyo2ライブラリー

読書キャンペーン 2014年10月27日(月)～2015年2月28日(土)

対象：本学学生（学部生・院生・科目等履修生・研究生等）

実施期間中、返却時に読後コメントを提出すると、ポイントに応じてグッズがもらえます。

賞品の引き替えについて

場所：事務室（カウンターでは引き替えません）

期間：2014年10月27日～2015年3月25日

時間：平日（月～金） 9:00～17:00

※賞品は先着順とし、なくなり次第終了となります。

詳しくは <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/event/other-events/2014/reading-campaign.html>

もう参加してますか？まだの人は、あと2ヶ月ありますので今からでもぜひ。参加してる人は、周りの人にも教えてあげよう！



『どんぐりだんご』

小宮山洋夫さく、福音館書店(かがくのとも；187)、
斎藤文庫 南館1階、E-1|KO 65

【想像してください。自分がどんぐりしか存在しない無人島にいることを。そんな時、助けてくれる本がこれ。どんぐりの集め方、遊び方からなんと食べ方まで紹介してくれるどんぐり界のバイブルとなる一冊。】

（教職大学院、M1）

『ご先祖様はどちら様』

高橋秀実著、新潮社(新潮文庫；10043、た-86-6)、
文庫 南館2階、SH-1|TA 33|14

【私がここにいるということのご先祖様がいるということ。ご先祖様はどこで何を生業にしていたのか？幸せだったんだろうか著者はルーツを求めて東奔西走。歴史とは、過去とは、自分とは？小林秀雄賞受賞。】

（特別専攻科）

『ほめる技術：授業で「やる気」を引き出す

40の方法』上条晴夫著、学陽書房、

開架 西館2階、375.1|KA 37

【ほめるということは単純なようで、これが意外と難しい。しかし、少し視点を変えると、驚くほど「ほめる」ができるようになる。この本を読んで、ほめ上手になろう！教育実習の前に読むのもオススメです。】

（家庭領域専攻、4回）

『「音楽的」なピアノ演奏のヒント：豊かなファン

タジーとイメージ作り』野村三郎著、音楽之友社、

開架 南館2階、763.2|N 95

【ショパンの前奏曲24番の最後に打ち鳴らされるDの音は何を暗示しているのか、シューマンが多用した「愛の6度」とは？楽譜の中に隠された意味を読み解いていくためのヒントが盛りだくさんの1冊です。】（音楽領域専攻、3回）

図書館からのお知らせ

春季休業に伴う長期貸出について

院生・教職員は1月14日(水)～3月13日(金)、学部生は1月28日(水)～3月27日(金)の期間に借りた図書
の返却期限日が、4月11日(土)になります。

※視聴覚資料を除く

リクエストウィークの展示を行います

10月20日(月)～11月1日(土)にかけて募集した特別
リクエストウィークで購入した図書を、下記のとおり展示
いたします。

リクエストした本人以外も借りることができますので、ぜひ
気軽に見に来てください。

期間：2015年1月19日(月)～2月10日(火)

※図書の納品状況等により、期間は変更となる場合があります。

場所：西館2階エレベーター前

京阪奈三教育大学連携事業プロジェクト 三教育大学間相互貸借を無料化します

対象者:本学学生(学部生・院生・科目等履修生・研究生等)
実施期間:2014年10月～2015年2月

学生が相互貸借を申し込んだうち、大阪教育大学または
奈良教育大学から取り寄せた場合、送料は無償とします。

詳しくは

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/information/2014/ILL-free.html>

図書館員のつぶやき(1)「曝書に思う」

先月末に蔵書点検を実施しましたが、蔵書点検の別名に
「曝書(ばくしょ)」というものがあります。書をさらすという名の
通り、元々は本に風をとおして虫干しすることで、蔵書の状態
をチェックすることから転じて蔵書点検を表すようになりました。
夏の季語でもありました。

現代では1冊ずつ虫干しをすることはなく、本に貼って
いるバーコードを読み取り、正しい場所に置かれているか、デー
タがおかしくないか、などをチェックしています。

時代は変わりましたが、蔵書を大切に、使いやすい
状態に保つという、図書館に必要な作業なん
ですね。



特集コーナー

その①

図書館ニュースで100回以上続く連載、

「私のすすめるこの1冊」の紹介図書コーナー
を設置予定。

1月前半は、

《身体をうごかす》《ことばを極めよう》

1月後半は、

《アートのたのしみ》《愛と青春の日々》のテー
マで、毎回10冊ほど展示します。

その②

1階渡り廊下のミニコーナー展示、

1月は、

「映画を観る・知る・たのしむ」をテーマにし
たコーナーを設置します。

私たちは映画を通じて笑い、喜び、感動し、主
人公さながらある種の時間を共有します。スト
ーリーも大切ですが、それ以外の要素(原作、
監督、俳優、音楽、風景、歴史など)をプラス
して、自分だけの映画のたのしみ方を見つけて
みましょう!

えほんのもり

今月の
絵本カードは
こちら!

今月の読み聞かせ会は、
1月19日(月)15:00～です。

★くうん、くうん、かえ
りみちはあっちかな?こ
っちかな?かぜさあん、
おしえてよう。なきべそ
がおのころわんが、そら
をみあげると..?



『まいごのころわん』

間所ひさこ 作・黒井健 絵

※絵本カードは幼児教育科の学生が作成しています。
このほかにも毎月かわいいカードが飾られていますので、
ぜひ児童書コーナーに見に来てください。

教育資料館

まなびの森ミュージアム

第3回

「京都・大学ミュージアム連携」スタンプラリー
京都の大学ミュージアムを回って知と美と素敵な景品を
手にしよう!

【期間】開催中～2015年3月31日(火)迄

「京都・大学ミュージアム連携」加盟のミュージアムで
展覧会を見学し、スタンプを集めて応募しよう!大学ミ
ュージアムグッズまたは各大学のグッズがもらえるよ。
※詳しくは京都・大学ミュージアム連携 HP にて

<http://univ-museum-kyoto.com/>

今回の執筆者 **角田 豊** (連合教職実践研究科 教授)

「学校教育とコフートの自己心理学 一生徒指導、キャリア教育・進路指導、教育相談、特別支援教育において児童生徒との関わりと理解を深めるために」

角田 豊

京都教育大学紀要, 2014, No.125, pp. 15-29

生徒指導の一番広い意味は、「子どもを育む」ための理解と関わりだと思います。関わっている児童生徒が「どのように自分自身を体験しているのか」に教師が注目することは、生徒指導（教育相談、キャリア教育・進路指導、特別支援を含む）を進めていく上で、とても重要です。

「時間はかかるけれど、何とか勉強がわかる」「頼れる先生や友達がいる」と子どもが自分を体験しているなら、自尊感情は安定し、自己肯定感はますます高いということになります。しかし、自分は「何をやってもダメだ」「皆から嫌われている」「気持ちを誰もわかってくれない」と体験しているなら、その子どもは自信がなく、やる気も起こってきません。気持ちもふさぎ込んだり、イライラしたり、やがて問題行動につながるかもしれません。こうした自己体験は、周囲の環境（家族、教師、友人、地域など）がどのようにその子どもにตอบสนองしたり、反応したり、関わっているのかによって大きな影響を受けています。

コフート(Kohut,H.)というアメリカの精神分析家が注目したのは、まさにこうした「自己体験」で、彼は子ども（そして大人も）が周囲の環境と自分の関係をどのように体験しているか（これを自己対象体験といいます）を丁寧に捉えようとしていました。コフートの理論は、心理療法論・発達論・関係論であり「自己心理学」と呼ばれています。この論文では、はじめに「自己対象」といった自己心理学の基本的な考え方を解説し、それから「生徒指導の三機能」、「自尊感情・自己肯定感・自己有用感・自己効力感」、「二次障がい」といった生徒指導に関するテーマについて自己心理学の視点から検討を行っています。

子どもや保護者を理解しながら関わっていく際に、また教師自身の人間関係や精神衛生を考えていく上で、自己心理学は新たな視点を加えてくれるのではないかと思います。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 125 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> にも公開予定です。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

■学内者のみ

2015年1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1/5 授業再開

1/17-1/18 大学入試センター試験

2015年2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2/4-2/10 後期末試験

2/7, 2/14 入試(学外者の来館不可)

2/25-2/26 前期入試

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

QRコード →



京教図書館 News No.172 (2015年1月号)

発行日:平成 27年 1月 5日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp